



第一卷

釋迦淨代記圖會

六


~ 13
4039
6



8504
8

釋迦

釋迦御一代圖會卷之六

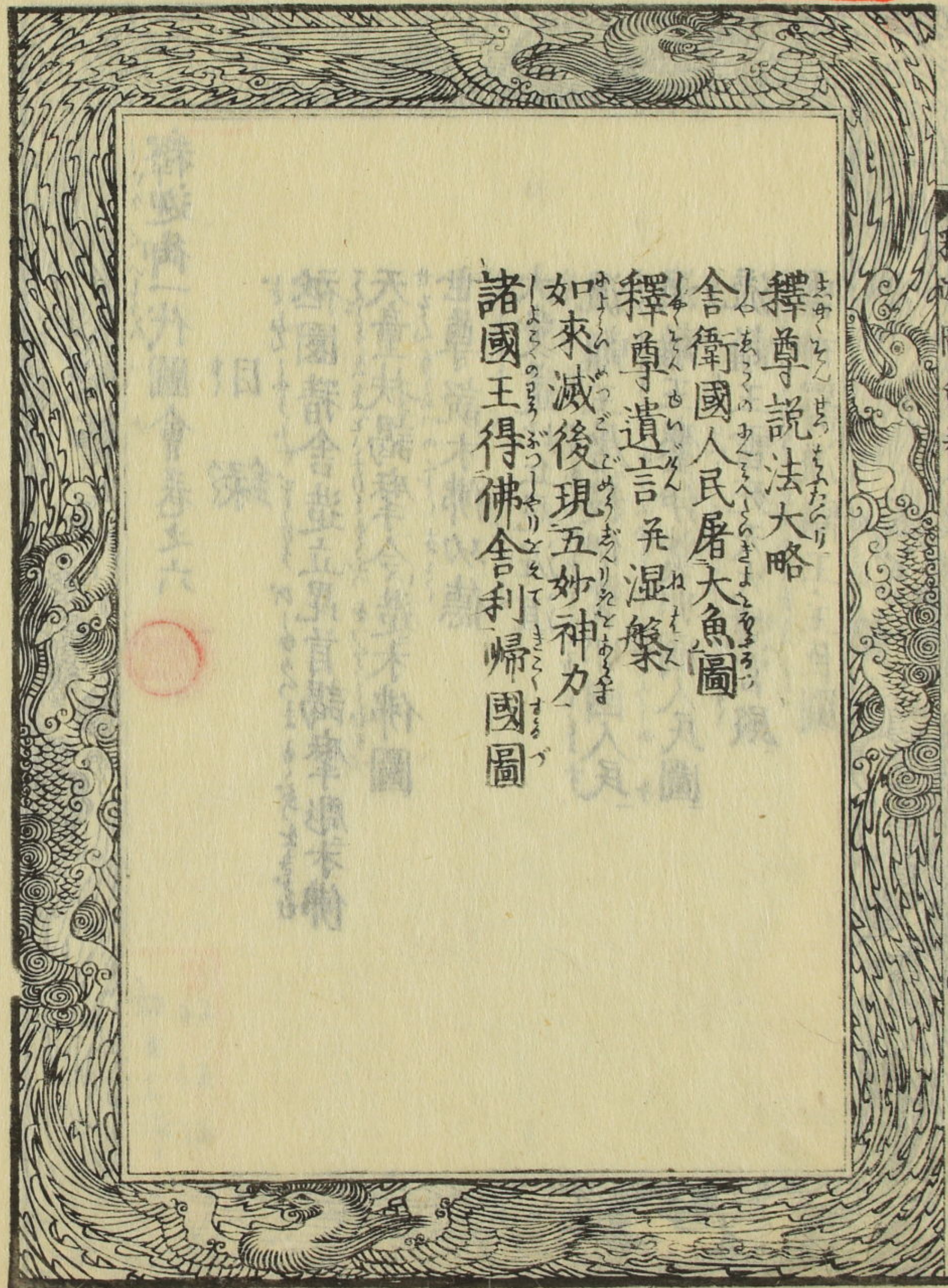
釋

目錄

祇園精舍造立毘首謁摩彫木佛
 天童扶謁摩令造木佛圖
 世尊說木佛功德
 大愛道比丘尼泥洹
 流離王屠殺伊沙那國人民
 流離王鑿伊沙那國人民圖
 流離王雷死天火燒宮殿
 雷神罰流離王臣圖

昭和42年12月12日寄
 和日大作 贈

釋尊說法大略
 舍衛國人民屠大魚圖
 釋尊遺言并濕槃
 如來滅後現五妙神力
 諸國王得佛舍利歸國圖



釋迦御一代圖會卷之六

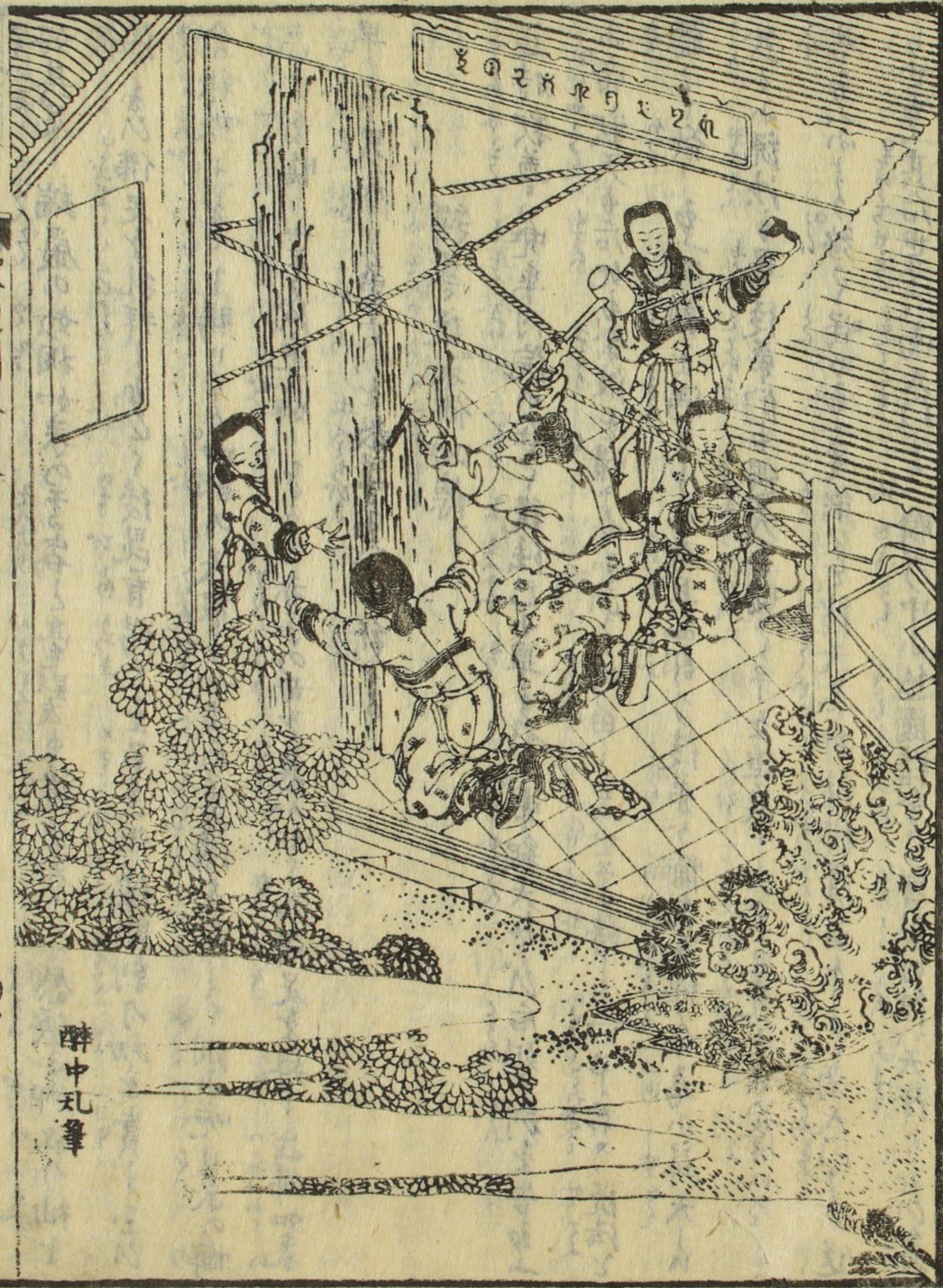
祇園精舍造立毘首錫大彫木佛

浪華好花堂野亭考選

須達長者一度佛顏を拜し、舎衛國小道場を開け世尊を招請し、
 國人小佛教を聴させ惡を去善小飯せり、無數の財宝を抛ち祇園太子
 月蓋長者の心を合せ、既小精舍を造せんとせし、六道師是を拒し術擁小
 更を寄し精舍營立を停止せんと巧しむ、須達大信心を困々、舍利弗言
 者大神通を顯し、六道師を拉死却り佛弟となり、國王御相を佛法に不
 可思議を信あり、長者天小歡び地小喜ひ、太子月蓋と俱小正近、屬
 堂塔を造營し、境内方罍里日本里數檀特山乃法姓臺真如臺西山
 乃發心本覺臺法性妙覺臺真如妙法臺真如臺五至表先立院を
 建是を祇陀院、療病院、絶藥院、安樂院、戲樂院、寺其其他罍九院
 千二百房、三千乃面廊、瓦を磨丸棟、柱を擇、堂塔の莊嚴七宝、一鏤

錦繡を布し、兜車内院小異なり、其の眼を強うするは、
斯く精舎成就せられたる。抵陀太子波斯匿王、近臣を以て精舎已に造営あり、
許あり、即ち勅使を王舎城善勝道場へまゐらせしむるを、精招あり、世を舎
衛國小精舎成就せしむるを、歡喜し、以て二十五百の大衆を従へ、彼國へ赴たば、
二十里毎小驛亭有る、各を設供養し、是須達命命を所たれ、世を
深く其信心を感し、如來路上の人民を化度し、光明を放し、舍衛國の
羅拘耶城近く到り、其國王の勅使及び須達月蓋迎せしめて、造営せし精
舎小精舎に入進せしむる世を、其地形乃平博たると、堂塔乃出巍たると、乃ん其
脚感斜なりと、抵陀太子乃園たれ、抵園精舎と号し、以亦給孤独長者、乃
用し道場たれ、給孤独園とも号し、以乃其後抵陀院小於し、始て説法
し、以はれ、波斯匿王も、后妃太子緒臣下、諸官人國人も、群衆して聽

し、信心渴仰せしむる、更淺くも、世を亦療病院小於し、國中の病者を醫療し、
絶藥院小於し、國人小醫藥を絶し、以乃其盲盲人を眼を兩た聳者、能く其
症ハ能く傳はり、起其他種々の難病者、とて治せしむるは、乃ん其貴賤奉て
佛法の功德廣大なるを、出家し、佛弟とあるもの數も、國王波斯匿
王も深く、信者多し、乃り世を、抵園精舎小在り、説法し、以乃更七年、及ぬ出
帝釈天、久く如來の説法を聽し、以乃其世を、兜車内院小招請せし
むる、思召せしむる世、尊早く、知て思召し、幸多の頃、日部の衆安速小聴り、勤行懈怠
せしむる者、是乃其心乃屬し、為昇天せし、十大弟子小、告公を金光と化し、
第三十三天兜車内院小昇り、帝釈天、乃后妃御歡喜限なく、種々小供養し、
以はれ、世を、歡喜し、以乃其法華經を説し、以乃抵園精舎小得六神通の
阿羅漢と、あはれ、如來乃昇天を知り、四部の大衆ハ世を、乃ん其ハさう然ん
く、大弟子、何地往し、乃ん其十大弟子小、問はれ、敢て、乃ん其四部の



恒り期を知まひの抑予出生く七日ふりく先妣摩耶夫人薨去りか其のち大
 愛道乃慈育ゆく成長。幾心口ふ入く一切種智を得る。更偏小大愛道乃高息
 あり。是れより金て八須弥山も猶高くとせど。滄海も猶浅くもなり。予萬一乃謝息
 の為彼精舎へ入りて。死法。且大往生を拜し。もく。十六弟子と俱不惟耶
 梨精舎に到り。か末期の御對面をかり。大愛道歡喜し。かこと斜か。病
 牀を離き。佛足を拜し。諸告事。躬て罪障深れ女の身かれ。如来
 の教化依り。三密依依。戒律を授り。功力あり。苦集盡道眼を開く。更を得
 今。往生の素懷を遂る。更も法王如來の大意あり。唯願く。終焉小說法一座を
 演まると。世々世々。領掌し。むひ善哉を。それ乾坤久くと。垂初あれ。終た人々
 有る。三畏の無常。と。夢の。幻の。生。死。せ。者。有。力。就中女
 八罪障ハ雲深く。貪慍痴の霧。帯。を。永く。惡趣ハ流轉。と。真如の月を見
 くと。難。と。い。く。大愛道ハ勇猛精進。一念不動の功力依り。緒の有結を盡し

無所着を得。極樂浄土。往生。か。久と。疑ハ有。と。と。金剛般若經を
 統比綸を奉。說法。むひ。大愛道歡喜踊躍。むひ。五百。除鐘。男。女。由
 ち。隨喜の涙を。と。く。聽。と。斯。如來の說法。も。畢。た。れ。大愛道世々
 師徒乃為。小。衆。を。致。供。養。むひ。其。夜。子。の。刺。小。端。坐。合。掌。し。く。禪。定。小。公。如
 逝去。り。か。多。く。多。く。の。女。僧。今。更。宛。轉。哀。果。し。余。波。を。惜。ま。な。も。成。世。の。種。々。り
 練。割。り。か。ハ。拈。檀。の。指。小。收。め。切。利。天。正。寺。小。送。り。香。油。を。と。り。茶。毘。も。り。か。小
 を。難。陀。王。大。愛。道。乃。遺。骨。を。収。め。淨。飯。王。乃。廟。乃。在。七。密。莊。嚴。乃。淨。屠。を。そ
 殘。る。方。乃。追。攝。作。善。むひ。乃。乃。難。有。多。く。御。更。か。り。り
 流離王屠殺伊婁那國人民
 茲小阿世羅國と。なる。國乃都羅拘耶城乃。至。優。填。王。と。人。深。く。世。の。妙。法。小
 皈依。紫。磨。黃。金。乃。佛。像。を。鑄。せ。肉。身。乃。如。來。小。ひ。く。朝。暮。礼。拜。供。養。む
 ひ。多。く。信。心。の。余。り。想。れ。々。々。隣。國。舍。夷。國。ハ。淨。飯。大。王。乃。御。弟。耳。露。飯。王。の。國。小

親、世尊の法族とれ。朕其妃を得。後宮小娘ハ幸しく一子を致。此國と
 儀。是如來と曰宗の釋種也。永く法脈を絶ま。國家安靜を。一々
 即阿舍夷國へ使者を立。親魯の義を望。此時甘露飯王ハ逝去あり。嗣
 子匿世王世を治られ。今優填王の使者を得。臣下を聚り。此義如何のん
 証。臣下の輩。曰。阿世羅國を原我が國の屬國也。臣下
 多。王の公王を需。妻妾を令。甚。礼不背。唯使者を鞭撻て
 追返。一。告。臣下の中。摩訶男と。人抑。曰。優填王の臣。礼不違。了
 と。其本心。我が國を侮。の故。あ。三。密。飯。依。余。釋種の胤を得。人
 と。欲。を。種。を。惡。む。た。義。不。あ。む。を。妻。不。使。者。を。辱。め。く。追。返。さ。す
 好。意。却。く。惡。心。と。衆。怒。激。を。發。く。兵。馬。起。し。攻。來。な。し。我國の君臣上下如
 來の戒律を保。殺生を禁。小車。り。殺。を。況。軍。戰。を。八。思。も。と。を
 小臣愚案を廻。い。小。二。の。針。策。あり。小。臣。一。の。處。女。あり。頗。る。端。正。美。兒。也

假。小。是。を。王。女。と。号。優。填。王。の。贈。を。真。の。公。主。と。思。ひ。怡。と。迎。り。永
 く。竟。を。侵。む。と。い。ゆ。と。い。す。と。匿。家。王。此。儀。を。了。し。と。曰。意。し。摩。訶。男。が。處。女
 小。羅。綾。の。衣。を。着。せ。七。室。の。瑤。瑤。を。頂。せ。王。女。を。与。し。号。一。輦。車。小。乘。り。阿
 世。羅。國。の。使。者。小。二。の。針。策。あり。使。者。大。小。悦。び。恩。を。謝。し。舍。夷。國。を。立。自。國。へ。回
 り。斯。と。報。す。優。填。王。其。妃。を。見。る。小。衣。冠。善。美。なる。上。面。兒。花。乃。如。細。腰。柳
 の。如。く。を。大。小。怡。び。真。の。王。女。なり。と。想。ひ。新。小。宮。殿。を。建。て。任。り。電。愛。淺。く
 を。遂。小。一。男。子。を。致。り。其。名。を。流。離。太。子。と。号。此。太。子。ハ。才。力。不。凡。優。填。王
 流。離。太。子。小。對。ひ。你。已。小。才。力。及。なり。舍。夷。國。ハ。射。法。を。堪。能。多。彼。國。小。到。り。射。法
 を。學。ぶ。と。命。せ。れ。を。在。太。子。領。掌。好。苦。林。志。の。人。者。十。數。十。人。近。臣。と
 從。り。舍。夷。國。小。到。り。摩。訶。男。が。家。小。往。又。王。の。命。を。告。射。を。學。人。妻。を。望。王。小
 摩。訶。男。ハ。我。孫。の。事。也。一。議。也。及。を。終。結。我。が。家。小。留。日。毎。小。教。場。出
 一。緒。釋。種。の。童。子。と。い。く。射。法。を。學。り。小。緒。童。子。ハ。離。太。子。を。一。河

男が孫おとこ 知り悔あはれり狂くる人ひと。非礼ひれいの事ことのさうりなれ。太子たいし推心おしこころ小憤こふんきくも
 我われ他國たこく乃者のりを斯かくをもるんも。胸むねを抑おさ射法しやうはうを学まなべれ。然しかる小或時あるとき
 流離りゅうり太子たいし好苦こうく梵士ぼんし們らと逍遙せうぎやうせし。新あらた建た講堂かうどう有あれ。何心なにこころか。梵士ぼんし們らと内
 小入こいりんる小堂おうちやう上かみ小師おし子こ座ざを殺ころけ花はなを挿さし香かうを燒やく。最もと由よし清淨じやうじやうなれ。太子たいし大
 小入こいりんる小堂おうちやう上かみ小師おし子こ座ざを殺ころけ花はなを挿さし香かうを燒やく。最もと由よし清淨じやうじやうなれ。太子たいし大
 人ひとを入い来きり。是こゝろを思おもふ。大おほ小怒こどろり。此堂ここのうちやうハ如来にがひを結むすぶ。供兼くげんし。も。小為こゝろ小新あらた小
 建た建た講堂かうどう中ちゆう。素姓すしやう卑ひ摩ま訶か男なんが孫まごを游あそぶ。む。所ところな。む。早はやく去さ去さ
 杖つゑを以もつて流離りゅうり太子たいし好苦こうく梵士ぼんし們らを散ち々ち小擲ちやく。堂外どうがいへ追お追おれ。れ。太子たいし
 重おも心こころ小朽惜こちやく。小心中こちゆう小想道かうどう我われ又また乃の縁えんを受うく。王わうとた。心こころ誓ちか言ごふ。此こゝろ耻辱ちじよくと雪ゆき
 拳こぶしを握にぎり牙を咬か路ろ上じやうと。好苦こうく梵志ぼんし小謂いて曰いは我われ成長ちやうじやうく。國王こくわうとた。ら
 小舍こせ夷國いこくを伐夷はつ。今日けふ乃の耻辱ちじよくを雪ゆきん。想おもへ。我われ後年こうねん忘わすれ。夷あやわ。バ。你心なんぢこころ
 小覺こかくて我われ小告こかく。命いのち。諸しよ六ろく河か男なんが舍せ小回こわいり別わかれを告つぐ。國こくへ飯いられ。其その後年こうねん

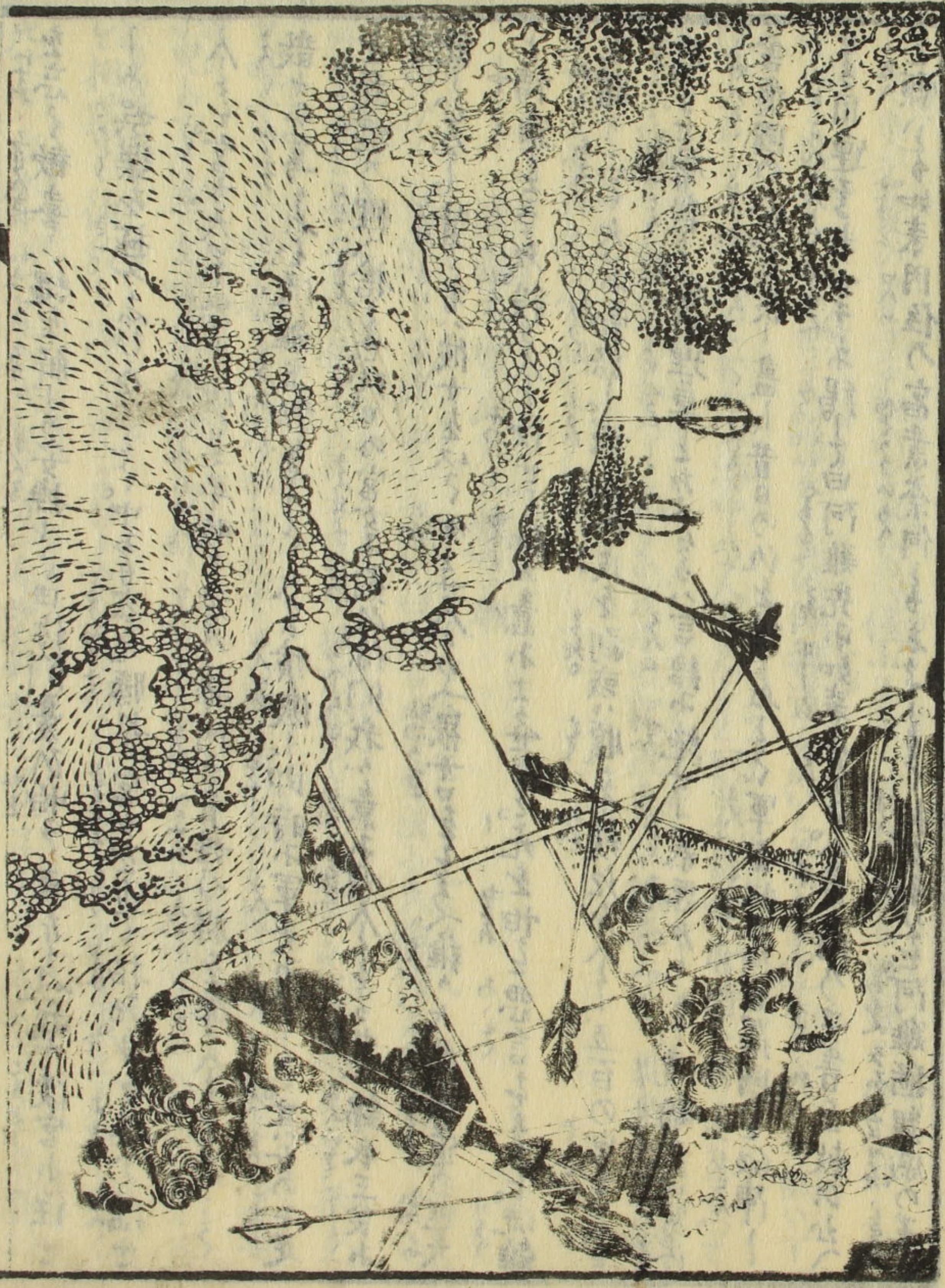
月つき推お移しり。優填うてん王わう逃去にげあり。流離りゅうり太子たいし讓じやうを受う流離りゅうり王わうと称なづく。一國ひとこく乃の政せい更かと
 執行しやうぎんの女色によしき小耽たり。驕奢きやうしや小荒あら。昔むかし日ひ乃の恨うらみを亡なし。多おほ小好こう苦く林りん士し耳みみ
 旧仇きゆうきゆうを忘わすれ。或時あるとき流離りゅうり王わう小告こかく。曰いは昔むかし日ひ乃の恨うらみを亡なし。多おほ小好こう苦く林りん士し耳みみ
 在ある。む。り。む。ひ。を。亡なし。む。と。向むかふ。流離りゅうり王わう勃然はつぜんと。色いろを。喪なす。我われ実じつ小往かう日ひの
 赤辱せじよくを忘わすれ。軍馬ぐんばを起おこす。舍夷國せいこく乃の人民じんみんを。一ひと人ひと殘ざんど殺ころす。盡つぎん。火か急きゆう小
 三十萬さんじゆばん乃の兵馬へいばを發はつす。國こくを去さる。舍夷國せいこくへ進伐しんぱくす。佛弟ぶつてい阿難あなんハ是こゝろを。父ちち
 母はは乃の國こくの大事だいじなれ。大おほ小孩こごれ。世よ見みる。告つぐ。阿世羅國あせらこく乃の流離りゅうり王わう今いま猛軍もうぐん
 を發はつす。舍夷國せいこくを伐夷はつす。彼國人かこくにんハ如来にがひの戒律かいりつを授たまふ。殺生ころしやうを禁かむ。然しかる
 兵刃へいびんを把たす。敵てきを拒こす。防ぼぐ。能よく。素もと乃の親戚しんせき乃の國こくなり。可憐これん威い神しん力りき
 を以もつて。大厄難だいやくなんを救すくふ。世よ見みる。曰いは舍夷國せいこく王わう今いま諸釋しよしやく種しゆ因いん位いの宿しゆく業ごうなり
 依より。流離りゅうり王わうの為ため小屠殺とろころを。是こゝろを。奈何いかんと。只ただ其その災わざい害がいを。世よ見みる
 宿因しゆくいんを果はす。敢あへて。阿難あなん佛ぶつ統とうを。其その救すくひ。を。悟さとす

以この猶族滅せしむるを今小忍とて同連小救を乞同連是を疑一釋種五
 千人を神通力あり鉄針の裡小入虚空小上り一隱一置生たり。斯く流離王
 八三十萬の兵馬を領し一舍夷國へ押寄せられた。匿波表王大の殺死國中の兵車
 を聚め十萬人を城外小出敵を防む然も此輩皆三室小依依。戒律を
 授り一々を敵を殺し吏を好む悉く鐵を抜唯怕一退くを人々と構ゆる。流
 離王ハ猛烈の悪王なれど自己衆を屬一敵陣近く押寄せ待殺する釋種
 乃勢弓絃を折りて散る射る素り舍夷國ハ射獲萬國小勝れ數百歩の外
 を射ししと流離王ハ其箭前を怖く進み得む已小引退んとせ小好苦梵士
 曳止り練り曰敵勢弓勢屬と云も皆親近乃戒律を受く人命を殺害する
 吏能をも唯押寄せ一人ハ残さず屠殺しむと勸む流離王是小機を整し。
 聚軍を下知り攻進む小実ハ梵士ヲ推察乃如敵兩乃如箭前を射し悉
 く鐵を死箭前なれ味方一人ハ死傷の者なり是小依く阿世羅國乃勢大り小

心を安んず。鉦鼓を鳴りて殺到するふと舍夷國の軍散々小陣隊を破れ皆城
 中へ逃竄る。茲小摩訶男ハ我ハ孫流離王今國家小寇を去る恥く水中小身
 我投り死なれ其一族門時小自殺し流離王ハ是を去るを二軍の令を傳
 城中乃人民乃中摩訶男一家の者を殺戮する吏勿れ其余の者ハ老幼を録しと
 盡く屠殺せよ但一舍夷國ハ美婦一容色勝る者を捉て我小得むと者ハ
 思責を小よとをり觸り無二無三小城門を攻破り數十頭乃惡象と先
 小驅えり殺倒し程小國王乃卿相兵卒數を盡しく亡失り流離王ハ
 味方の勝利を今城中小摩訶男を尋る小吏小令を亂軍乃中ハ討れ人
 軍吏を今尋く音く尋求る小池水の底より死骸を探り出流離王の前
 へ呈列り斯と告流離王ハ河男ハ死相を乞甚く憐れ且我ハ此國小寇と
 我憤て死なれ頻々慚愧一怨愁小勝む所軍吏五百人の宮女
 を生捕り曳来り王小献る王信宮女を今比無双乃國色なれ小忍り自反



流離王の暴虐
舎夷國の人民を
盡す事



を忘るゝ歡喜。繩を解し安撫し曰。你們憂ひ怕る。更なれ我。後宮小任せしめ。娛樂を極めむ。中おも容見勝外。宮女を近く招き身を捧ぐ。淫せんと。宮女大に怒り。汝は是早賤の者。乃孫何ぞ貴姓。乃船を辱へんと。其女の手足散々罵れ。流離王勃然。大に憤激。即時軍使命。其女の手足を新堀の裡へ捨せ。残りの宮女。對ひ。你們我。意。頃。人。と。者。錦衣王。食。飽。む。背。者。彼。女。を。以。て。例。と。せ。ん。と。衆。女。を。と。り。維。大。惡。無。道。の。匹。夫。と。情。通。を。多。れ。殺。さ。ん。と。欲。せ。む。你。が。意。お。よ。せ。よ。と。死。を。怕。む。惡。言。を。多。ふ。と。流。離。王。躍。り。上。り。大。に。勃。然。怒。り。或。六。面。の。皮。を。剥。或。八。腹。を。殺。た。か。ん。と。五。百。の。宮。女。一。人。も。残。さ。ず。屠。殺。し。堀。の。埋。草。と。り。多。る。ハ。言。語。絶。せ。暴。惡。か。り。々。流。離。王。思。ひ。終。言。夷。國。の。人。民。を。殺。盡。し。昔。日。の。仇。を。復。し。ぬ。と。軍。を。収。て。阿。世。羅。國。へ。取。陣。し。同。連。者。世。を。不。錫。と。曰。阿。難。先。小。如。來。未。也。と。舍。夷。國。乃。天。音。を。救。ひ。か。へ。と。願。ひ。も。如。來。因。位。乃。宿。業。奈。何。も。未。也。と。と。救。ひ。か。へ。と。阿。難。猶。親。戚。の。笑。ふ。

く久。更。を。憂。ひ。弟。子。小。救。ひ。を。求。め。僅。小。五。千。人。の。釋。種。を。鉄。鉢。ハ。裡。小。隱。一。助。命。ハ。一。言。一。行。を。世。を。微。笑。夫。ハ。一。の。你。神。通。を。得。と。い。ふ。宿。業。を。救。ぐ。能。ハ。一。隱。一。置。し。鉄。鉢。を。も。ろ。し。鉢。中。の。人。を。見。し。と。曰。小。を。同。連。即。時。小。神。通。を。も。つ。て。雲。上。小。隱。せ。鉄。鉢。を。お。ろ。し。五。千。の。釈。種。悉。く。餓。死。せ。り。同。連。大。小。等。九。世。を。小。其。故。然。を。問。き。り。々。と。流。離。王。雷。死。天。大。燒。言。殿。其。時。釈。者。同。連。ト。も。諸。弟。子。小。説。て。曰。往。古。北。舍。夷。國。小。大。饑。饉。有。て。一。舂。乃。金。小。一。舂。の。米。を。易。ぬ。是。小。依。り。人。民。木。皮。草。根。を。食。く。飢。を。凌。ぐ。小。果。ハ。木。皮。草。根。を。も。食。盡。し。絶。え。れ。大。池。乃。水。を。入。り。數。萬。の。魚。を。捉。り。是。を。食。と。唯。二。小。小。兒。も。つ。く。魚。を。食。更。を。欲。せ。と。却。り。數。千。の。魚。を。蓄。お。拾。隠。し。人。小。食。せ。り。を。相。藏。し。後。放。ち。活。入。更。を。お。り。小。日。を。徑。り。苦。を。り。本。一。魚。を。入。れ。を。悉。く。死。せ。り。亦。水。中。小。二。尾。の。大。魚。あり。一。尾。を。拘。環。と。号。一。尾。を。号。古。と。号。二。魚。相。結。

て曰我門ハ是池中ノ水族敢ク信國ノ人民小害を加ヘズ然ラズ城中ノ人民小害
 我カ種類を盡シ食又恨カラス生を易ルモ此仇を復シテ在スヤヤ結
 畢ク二大奥中透小捉喉ノ彼奥を捉喉人民ハ今舍夷國城中ノ君臣是ク
 拘環奥今乃流離王カク妻小奥今ノ好苦梵士カク然ク彼二人ノ小兒
 之阿難阿連カク奥を助命シテ却ク奥を殺セテ宿業小依テ今五千ノ人々
 鉢中ノ急一餓死セリ也。比是因位ノ志シテハ神通力由之
 更能ハトシ鋭心ハ阿難目連其餘ノ緒羅漢中因果應報ノ端的カク歎息
 一亦同ク曰今緒執種前報小依ク流離王乃為小屠殺スル流離王ハ惡逆殘
 忍小猶存命セリ此後ノ妻ハ如何カクヤ同世者曰緒執種前因小依テ流離
 カ為小屠殺セシメル也戒行を守テ敵ノ人命ト傷ム其功カ小依ク皆天上小生
 一限カ死樂を受ケテ流離王ハ因位ノ仇を復シシメ也。三室小飯依セテ暴惡又
 甚クシテ七日ノ後大厄難ハ遭衆臣ト俱小阿鼻地獄小墮落スル一ト鋭

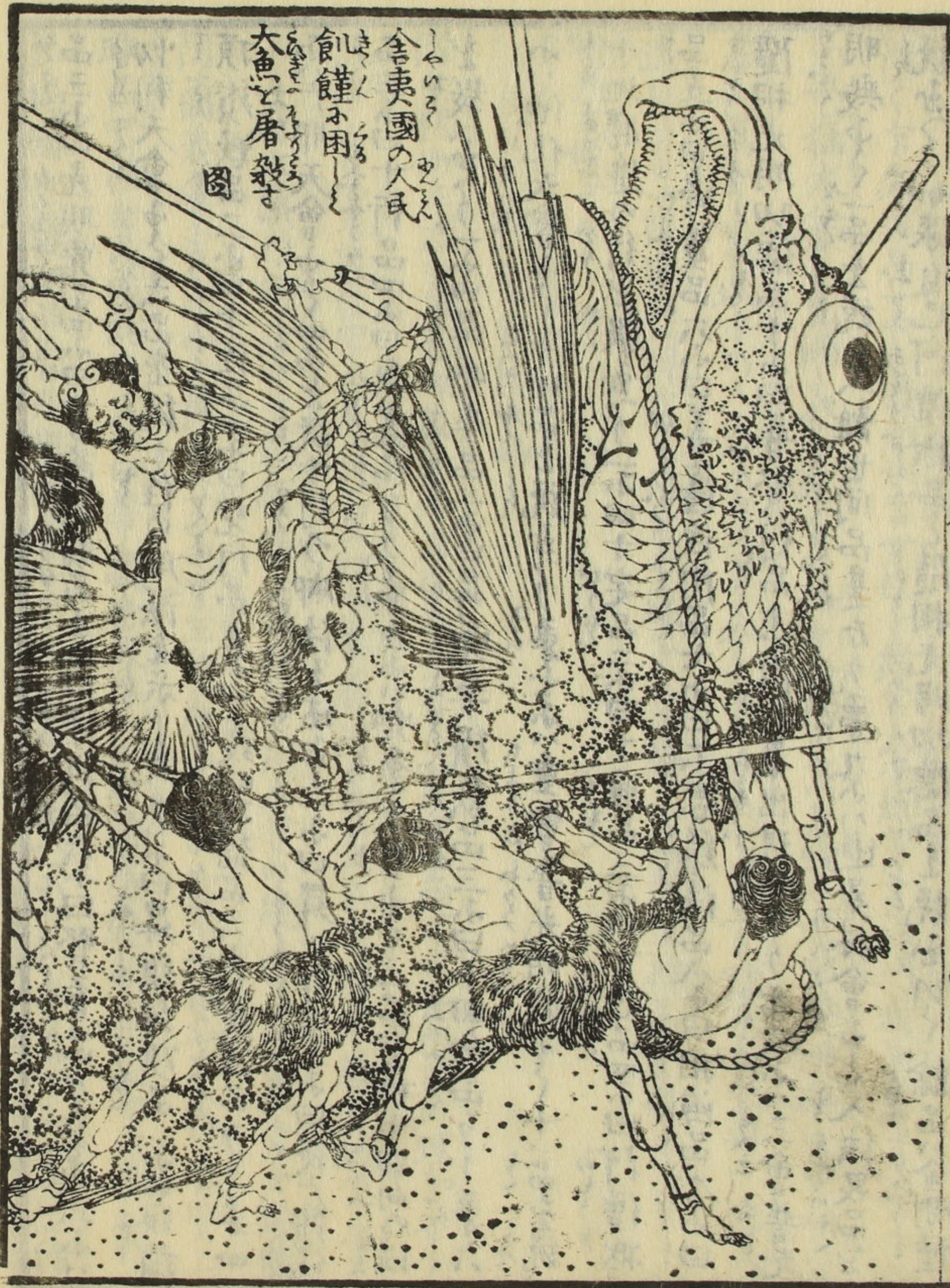
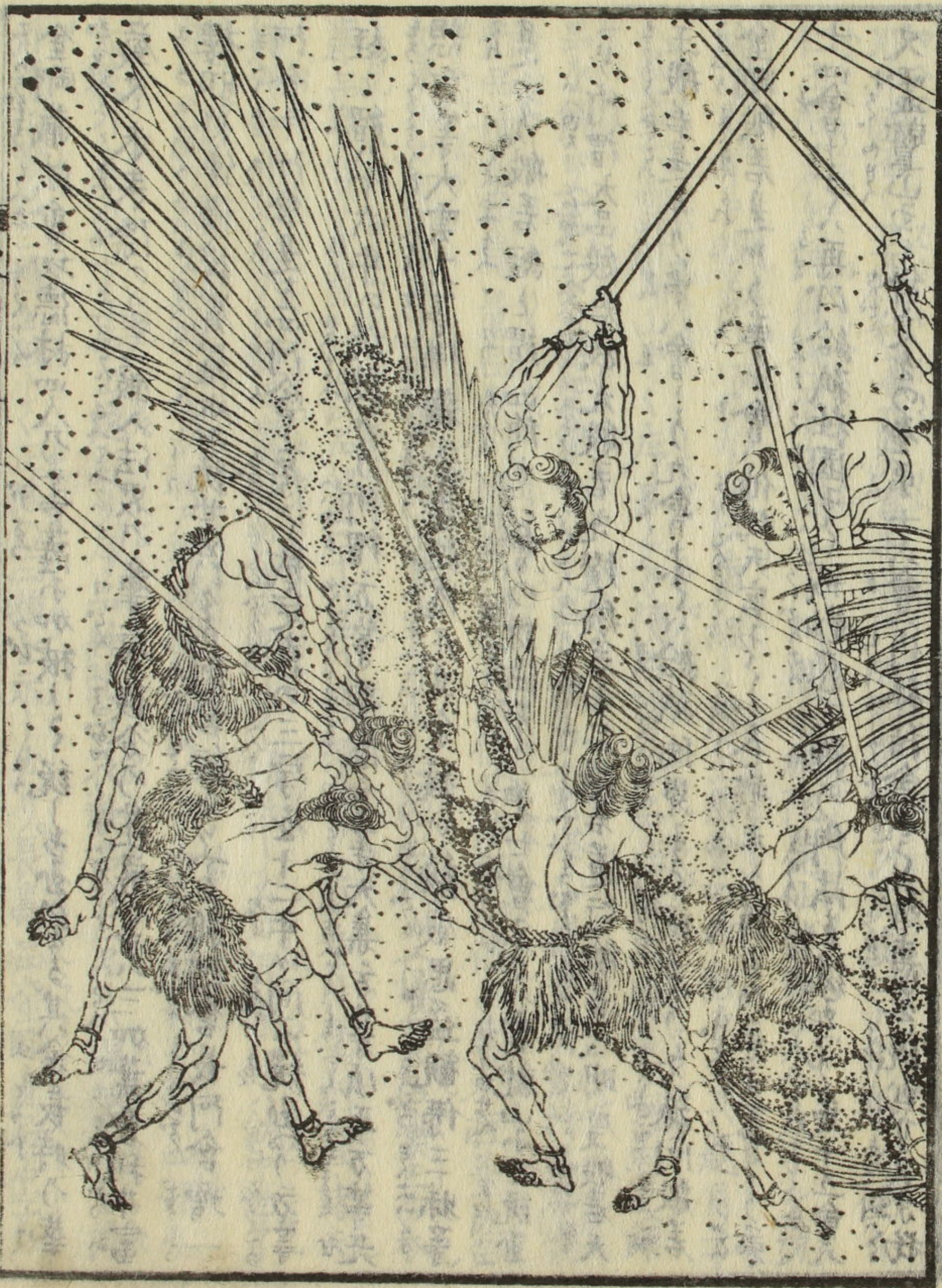
而小之緒羅漢感慨一佛說斯乃如カレテ流離王カ身ノ上ニ危カレト思
 小カ多。然ク小此更難クシテ久流離王傳言ク大カ小警死懊惱一ト寢食を
 安人カ好苦梵士練ク曰大王何カ婦女子ノ如ク。釈迦ノ正言を信。即ハ今隣
 國大王乃猛威小怖ク竟を侵ム者カ。國人大王ノ善政小仗ク業を樂ム何
 小依テ大告を生シカ心カ放テ歡樂一也カト告小流離王亦梵士カ辭
 小惑ハ恐懼ノ念を忘シ美女を逐ヒケ淫樂一酒肉を貪ク娛樂一酒
 飽足カ阿脂羅河トリ川辺小往美女を左右小緒臣下を聚テ酒宴を催一歡
 樂一在々小俄然ク不時小黒雲蔽リ暴風大雨降キ雷鳴天地を覆
 小カカレテ流離王カ緒人カ小周障狼狽一我先小逃入トカカ四方唯
 冥々一咫尺ノ間カ人々カ電光透向カ閃一聾一カカ一衆人
 地上小倒レ手足を張ク怕恐ハク。百千ノ雷落ク流離王好苦梵士先
 隨後セ男女一人カ残カ微塵小碎カ死一トカカ加之日時小羅狗耶城ハ天火

降宮殿緒房一各小焼亡。宮女姝女緒官人老幼男女泣叫我先道。道は
これ猛火八方元満れ道小路を焰小焦を煙小喉形勢叫喚大叫喚の
若小異方々を城中の人民一人も残を死し多々怖る。しゆ疎なり。余國の緒人
近た八目小視遠た傳步く。佛言の違が感。愈悪を捨善を修。三寶
心成を傾けたる。

釋尊統法大略

諸中釈伽牟尼世尊一切衆生海度の為小普く四天下を廻り。三世因果の理を示し
統法。其妻前後四十九年。統法。經ハ華嚴阿含方等般若法華涅槃等。号
一五時六顯の御法なり。初頓華嚴經。七所九會の統法なり。第一ハ六錫國
阿蘭若會。第二ハ六品を統法。第三ハ世主妙嚴品。第四ハ如來現相品。第五ハ普賢三
昧品。第六ハ世界成就品。第七ハ華藏世界品。第八ハ毘盧遮那品。是なり。第九ハ
大錫國熱連河曲普光明殿會。第十ハ六品を統法。第十一ハ如來名字品。第十二ハ

品三。小曰光明覺品。四曰菩薩同明品。五曰淨行品。六曰賢首品。七曰第一三
切利天會。中六品を統十任の御法を示し。第一曰昇須彌頂品。第二曰須彌
頂續歎品。第三曰十行品。四曰梵行品。五曰菩提心功德品。六曰統法品。七曰
小六耶天會。中四品を統十任の御法を示し。第一曰昇六耶品。第二曰夜上續錫
品。三曰十行品。四曰無盡品。第五曰兜率天會。中三品を統十任の御法
を教。第一曰昇兜率品。第二曰昇兜率續歎品。第三曰十回向品。第四
小他化天會。中十地品を統。第一曰昇兜率品。第二曰重會普光明殿。中十一品を統
十地勝進の行を教。第一曰十定品。第二曰十通品。第三曰十思品。四曰行僧祇
品。五曰喜量品。六曰菩薩任所品。七曰不思議法品。八曰相海品。九曰
隨相光明功德品。十曰普賢行品。十一曰如來出現品。第十二曰三會普光
明殿。中一品を統。第一曰離世間品。是なり。第九曰遊步林會。中八法界品。之
統。第一曰如來自己阿僧祇品。隨相光明功德品を統。第二曰餘品。八金剛幢



全夷國の人民
 飢饉不困
 大魚と屠殺
 図

金剛藏法會功德林四人乃菩薩亦加彼一統一也。其長時華嚴
嚴久未來際之華嚴入法界之華嚴後分之花嚴等。三加葉舍利華富
樓耶月連優樓賓羅亦統世也。阿含經之雜阿含長阿含增一
阿含中阿含是西阿含之字。戒定惠之三学を十二年間小統一り方等
經之經六十六年の統法なり。所謂方等要惠方等大集方等頂王方等先
想方等大雲方等佛藏方等陀羅尼其餘。後加後嚴思益觀佛三昧等
是なり。般若經之經六十四所十六會の統法なり。第七會之八靈就山にて統
一り所謂大品般若放光般若光續般若小品般若道行般若大明度般若天
王般若是なり。第八會より九會まで八給孤獨苑にて統一り。文殊阿般若
金剛般若是なり。第十會、他化天宮にて一卷般若を統一り。第十一會より第
十四會まで八再び給孤獨苑にて戒勤忍三種の御法を統一り。第十五會ハ
又靈鷲山にて禪定をの巻第十六會ハ竹林精舎にて智惠を統一り。其餘物

耶尼國より波陀和菩薩の爲不昔行般若を説か。其後二十余年を徑
仁王般若を説彼提婆が惑させ。阿闍世稱陀鹿仙龍種。天の太子を説
繪一むいり般若の功力なり。法華經之經六二所會の統一り。其題目二
八品第六靈就山より序品と方便品譬喻品信解品藥草喻品受師
品を説か。第二六虚空會より十一品を統一り。宝塔品提婆品勸持品安樂
行品涌出品壽量品分別功德品隨喜功德品法師功德品常不輕菩薩品
如來神力品等なり。亦靈就山會より七品を統一り。囑累品藥王品本
事品普賢菩薩勸進品以上二十八品乃妙經なり。六菩薩摩訶薩諸天
諸佛如來下羅利龍王魔梵刹女對して統法一なり。涅槃經ハ就中世
自己入滅の期を知覚しむ。物尸耶城跋提河の辺り娑羅雙林に於て四部
大衆乃爲小二十五品を説か。一序品純陀品衣敷品の三品ハ濕槃施を説
外道小乘の三種を破して正法の三種を示しむ。一長壽品金剛身品名字切

徳品相品四依品邪正品四締品四倒品如來性品文字品鳥喻品月喻品善
薩品大衆所同品此十四品ハ涅槃の義を述ぶハ現病品聖行品梵行品
嬰兒行品徳王品ハ五品ハ涅槃の行を説くハ師子吼品迦葉品陳如品
ハ三品ハ涅槃の勝用を説く一切衆生悉有佛性如來常住無有變易と
教ハ凡有心者決定當得阿耨菩提と示し之ハ難有るハ即更ケリケリ

釋尊遺言 再 涅槃

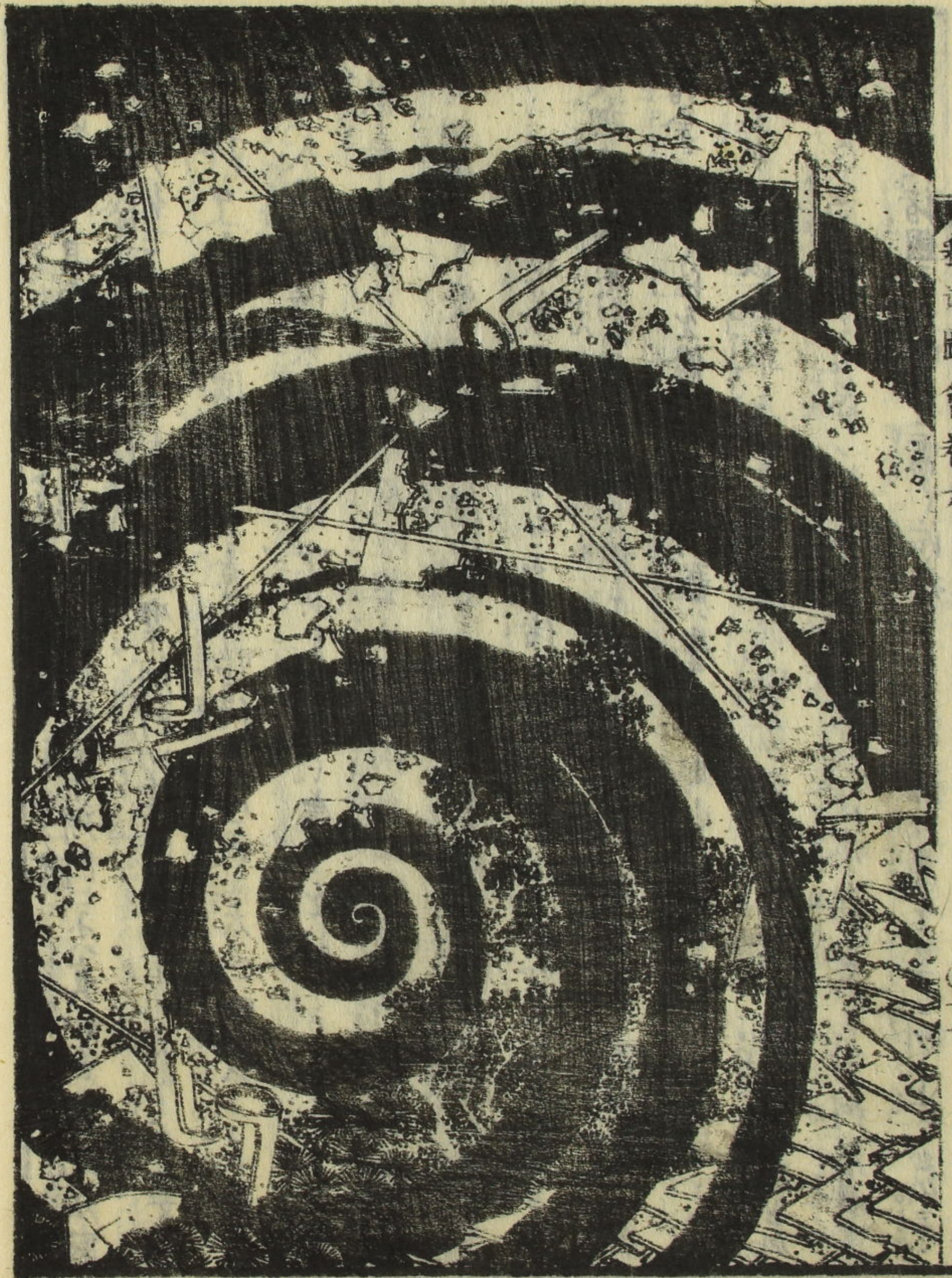
世尊室算七十七歳の時靈鷲山會ニ於テ十大弟子十六羅漢五百羅漢
其餘三千三百余人ハ大衆を聚テ仰テハ緒羅漢ハ修行の跡ハ就テ撰擇
とシテハ道理あり皆集會とシテあり之ハ各領掌シ修行の座位と正
座具を以テ坐をシテ功德三昧の座禪を力とシ其時世尊獅子の高座ハ
上ニ坐シ金婆羅華とシ花を左ハ胸手ハ持シ之ハ曰今日の說法ハ
功德附屬ハ大事ナリ之ハ一葉の船ハ四列を積一粒の芥子ハ天下と包シ

理リ此花ハ三見あり一ハ種々說法三昧功德摩訶衍二ハ真如無爲說法寂
滅摩訶衍三ハ真如舍利非寂滅摩訶衍功德附屬と示シ之ハ金婆羅
華を捧ギテ緒羅漢ハ其意を悟得テ座禪工夫ヲ默然トシテ摩訶
迦葉一人破顔微笑シ座を起テ坐具を絞リテ虚空を觀シテ在テハ之ヲ釋
尊歡喜トシテ曰吾ハ正法眼藏涅槃妙心實相無相微妙法門あり不立文字
教外別傳ナリ摩訶衍ハ功德迦葉ハ附屬と金婆羅華正覺下化衆生是
カリトシテ自己迦葉の手ハ渡セシテ諸君を迦葉を滅後の如來と号セテ世尊曰
以後迦葉ハ鷄足山ニ住シ法を修メ舍利弗阿難富那羅暎羅と然
爾積余ハ在テ法を修メ同連阿難ハ摩訶耶山ニ象頭山ニ住シテ修法トシ
ト示シ其後又二年立世尊ハ跋提河の辺カニ空羅隻林ニテ說法を平シ
タリ二月ハ旬ハ到リテ忽チ背痛の病を得テハ法牀ニ卧シテ之ヲ阿羅漢達
大ハ不殺ハ諸國ハ名醫を需テ治療シテ之ハ強壯感を世尊制止シ之ヲ示



暴悪と四封して
天雷流離王が
王宮を焼君臣と
撃殺す図

天雷流離王の
暴悪と四封して
王宮を焼君臣と
撃殺す図



新編 圖會 卷六

十七

已小滅度の時至り。敢て醫藥の及ぶをあらむ。予が入滅の後八摩河迦葉を
師とて四部の大衆を舍利弗月連富樓那可難阿難須菩提羅睺羅乃七賢
弟子就て。無為成道を修せし。遺言に。諸羅漢諸大衆。是の地を
仆て。返怨を是の奈何なる御更とや。弟子等い。真正等覺の真旨を得て。
然るに如来忽ち捨て。湿槃に入らば。弟子們と大洋小漂。楫を折。闇夜に迷
て。燈を消し。如維を頼て。彼岸に到り。い。仰れ。願く。我佛如来憐愍を垂
て。猶一切を往む。弟子們を教導せむ。と願をい。世も御手を揮む。愚や
你達天壽素り定數あり。何の方便も是を延べ。更を得。入平常願の如く。發
心修行し。正覺成道する更を得。今將永く生老病死乃四苦を離る。乃期到
ま。歡喜何更。是の如く。曰。其後八劫を過し。鍊をい。一言も答とな
し。む。御身より金色の光明を放ち。其先大千世界小光。より。諸所を
照れ。阿羅漢ハハをさ。乃上梵天帝釈四天王無數の天部諸善神中小ハ

百國の王緒仙緒道師下。森羅法王。萬眷族。八大龍王。恒沙の水族。小の道。この
光明を。大苦惱を生。是將小釋迦牟尼佛滅度を執。瑞應なる。一とて
怨心哀號泣。勝る。能く。如来の涅槃の相好を拜。も。人々悉く。双林
へ集會ある。世尊ハ空羅雙樹の下。法乃林の上。頭北面。西右脇卧。小卧。緒
行無常の機を現。鶴乃林。小頼と。く。見。五億の億尼目。昏
心消。是生滅法の春。乃花。今や常。乃風。乃。紅。乃。泪。乃。衣。乃。袖。を。絞。り。非。情
牛馬。大羊。象。獅子。虎。豹。以下。乃。諸。獸。鷲。鴈。鳥。息。孔。雀。燕。雀。鴛。鴦。以下。乃。飛。禽。其
他。羽。魚。化。魚。濕。虫。以下。乃。雙。林。の。辺。小。聚。頭。を。低。れ。羽。を。縮。り。如。来。乃。入。滅。を。怨
も。乃。ね。五。五。乃。悔。乃。切。利。天。喜。見。城。小。住。乃。帝。釈。天。の。后。妃。ハ。先。乃。統
如。正。乃。前。身。ハ。佛。母。摩。耶。夫。人。也。乃。世。乃。五。乃。窓。の。悪。夢。乃。見
む。其。乃。須。彌。山。崩。乃。四。海。水。湯。其。乃。羅。刹。奔。乃。人。間。乃。眼。中。小。入。其。乃
乃。后。妃。自。已。寶。冠。を。失。乃。身。軀。光。明。消。其。乃。室。珠。幢。倒。乃。如。意。珠。を。失。乃。其。五

小獅子来り身軀を咬疼痛刀中割如后妃此夢を足く該覚かハ熟
 思惟いひるる八自巳因位の昔淨飯王乃后妃の備り奇夢を足く如来を懐
 妊せし想ひくは夢を這五箇乃夢の不吉なり疑らハ釈迦牟尼世尊滅
 度を執り凶兆ハあはるることあまふし不思議や頭上乃花萎二ハ腋下
 汗出三ハ頂中の光滅四ハ两眼數瞬た五ハ本座小着中懶
 妃倍疎たむ所ハ飛行童子来り帝釈天如来の入滅を拜せん
 降むりと報じ后妃是を史むハこれこそ五惡夢五衰乃事果して如来滅
 度の凶兆なりと云く怨哀小勝ど網絶躡地ハ言女們大ハ小發兒百般ハ抱
 一ハ呼活なるハ漸ハ魁リハ御泪雨の如ハ亦ハ絶入ハ歎たむハ
 ばれ玉ハ天宮小秘と起死回生の不老藥をとり本錦ハ囊ハ収り携玉ハ散
 千の言女を隨ハ八葉の鞞車小乗ハ飛行童子小前後を傍せ淨雲小送られ
 沙羅雙林をさして天降りハ所ハ白鳩孔雀鸚鵡舍利白鶴鷲鴛鴦迦漫頻伽

以上七種の鳥數萬羽飛来り羽風を發し後妃の御車を吹と吹戻し
 雙林ハ降しと横障の雲を西復ハ天の通路も塞リられハ后妃是ハ淺し
 や再度如来小見する妻ハ能ハるる軍車の裡ハ伏沈歎死ハ
 余の妻乃本意なき起死回生の靈藥を御手小採せり是ハ如来の御
 手小届けり欲我今至身心願直至如来不老藥と唱ハハ雙林ハ臨
 下投下ハ信仙藥飛鳥の如ハ安羅雙林の如来の法林と紀降なるハ
 世乃御入滅ハ定する事小やとの靈丹霍林樹の梢小停り如来の
 御手小く力をた時ハ雙林ハ三千世界の諸佛薩無梵天帝釋諸
 天將百國乃緒王緒仙緒道師阿修羅迦累羅八大龍王小の迹如来涅槃
 の相好を拜するハ面ハ光明を放ち大千世界を照しハ其光乃裡ハ無
 量の化佛出現ハ種種ハ妙花を降ハ伎樂を奏し西方淨土無量壽如来
 由紫雲小乘ハ来降ハ極樂界ハ引接ハハ体相心ハ及ハハ感涙

を流し合掌せしむる者あり。時二月十五日寅乃上刻大恩教主釋牟尼
佛生滅々已寂滅為樂乃儀を示し。遂に寂光の都へ皈せむ。此の無量の人類禽獸諸虫亦く其の聲を致し。注慈を蒙る。ハ其理りしと思ふ。其
釋尊滅後現五妙神力

諸羅漢達ハ斯く在果を認められたる如來の尊嚴を守護し。跋提河を渡
天冠寺小入より。淨香湯を以て佛鉢を沐浴し。百端の長鬘を以て是
を纏ひ。七宝の金棺を飾り。香油を灌ぎ。栴檀の擲小納其上を亦鉄擲入郊外
小送りし。其人々ハ。阿闍梨尊者。智惠尊者。舍利弗尊者。解空尊者
一乃須菩提尊者。說法第一乃富樓那尊者。神通第一乃目連尊者。論議第一
一乃迦旃延尊者。天眼第一乃阿那律尊者。信敬第一乃可難尊者。密行第一
一乃羅睺羅尊者。頭陀第一乃阿若憍陳如尊者。此の八法棺を尊り。其優婆塞。賓頭盧伽。結
迦伐蹉。跋耆摩。墮闍。換頻陀。結娑羅。跋陀。羅迦里伽。半托迦。那伽。遲那。因。錫。陀

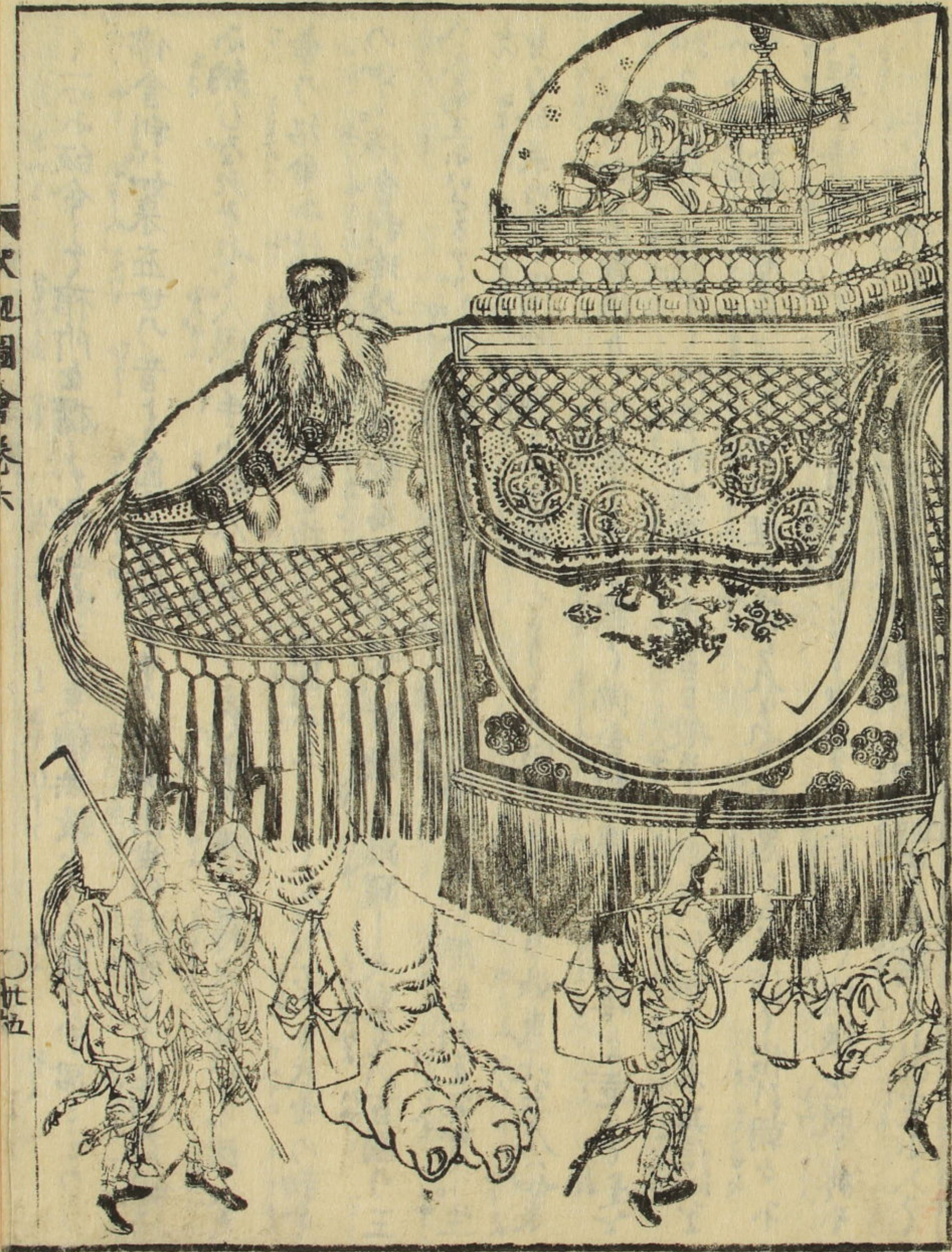
伐闍羅弗多羅。伐博迦。伐那波。斯阿氏。注茶。半托迦。羅漢と云。此人々ハ金棺を先
之に金鼓法續し。是乃羅漢ハ萬億の御弟子の中より。修修行
功を以て。各六通を得。其の身亦添如。如來小隨從。一を軟た乃色
深く。見ゆる。諸を如來。此の令を解脫の菩薩とハ稱し。其の其次ハ五百羅
漢。各名を玉。鑄宝花。華鬘。味燈。明及。種種の佛具を以て。金棺の背に隨
其次ハ比丘比丘尼。優婆塞。優婆夷。四部乃大眾送り。其の他難陀王。を先
百國の諸王。民間の老若。愁歎の涙を垂。郊外小充滿せり。斯く諸羅漢を
香薪を積。金棺を居。明法を意心を改。華嚴阿含。方等。般若。法華。涅槃
等の妙教を續編。三昧。座。禪。觀。察。加。行。真。言。動。行。淨。土。を。香。薪。小。付
茶。毘。何。方。も。更。何。や。敢。燧。授。煙。揚。是。如何
香薪を積。香油を灌。火をひ。愈大移。大を發。法華。佛意
小協。各儀。阿那律。女時。思惟。手を拍。曰。香薪の

燃きるの摩訶迦葉を待たしむ。彼師兄波婆國鷄足山乃室小室當身。素より六
神通を得我佛如來を滅後の如來と仰ぐ。と曰わぬ大徳か。疾り如
來の涅槃を知らぬ。今に至る。來ざる如何なる。或は各女時。應禪觀。衆
待ふ。と告ぐ。衆を以て。三昧加行。佛棺を圍繞。所小果。て
大迦葉五百人の徒弟を引く。天冠寺の郊外。來着。衆を大衆。是を。今
更如來の御在世を思出。再び怨歎の涙。衣の袖を絞リ。大迦葉其体。見
ず。噫氣。疎や。如來已小滅度。を執。お人々。何を怨む。や。んと天を仰ぐ。大は。大
更三度。おたふ。大衆。眞を覺。く。因果。是。如何。如來。小別。なり。怨歎の余。り。獲
狂せ。亦。天魔。破旬の魅。互。面を見。令。更。云。所。を。何。難。尊
者。堪。迦葉。小對。師兄。八。如來。出。山。乃。弟。二。弟。俱。小。徒。弟。を。明。織
抜。群。乃。今。將。小。法。王。如來。入。滅。我。們。四。部。の。大。衆。乃。怨。歎。を
以。て。更。り。天。上。の。緒。神。緒。善。善。地。下。の。龍。王。永。族。り。悲。情。の。禽。獸。緒。魚。を

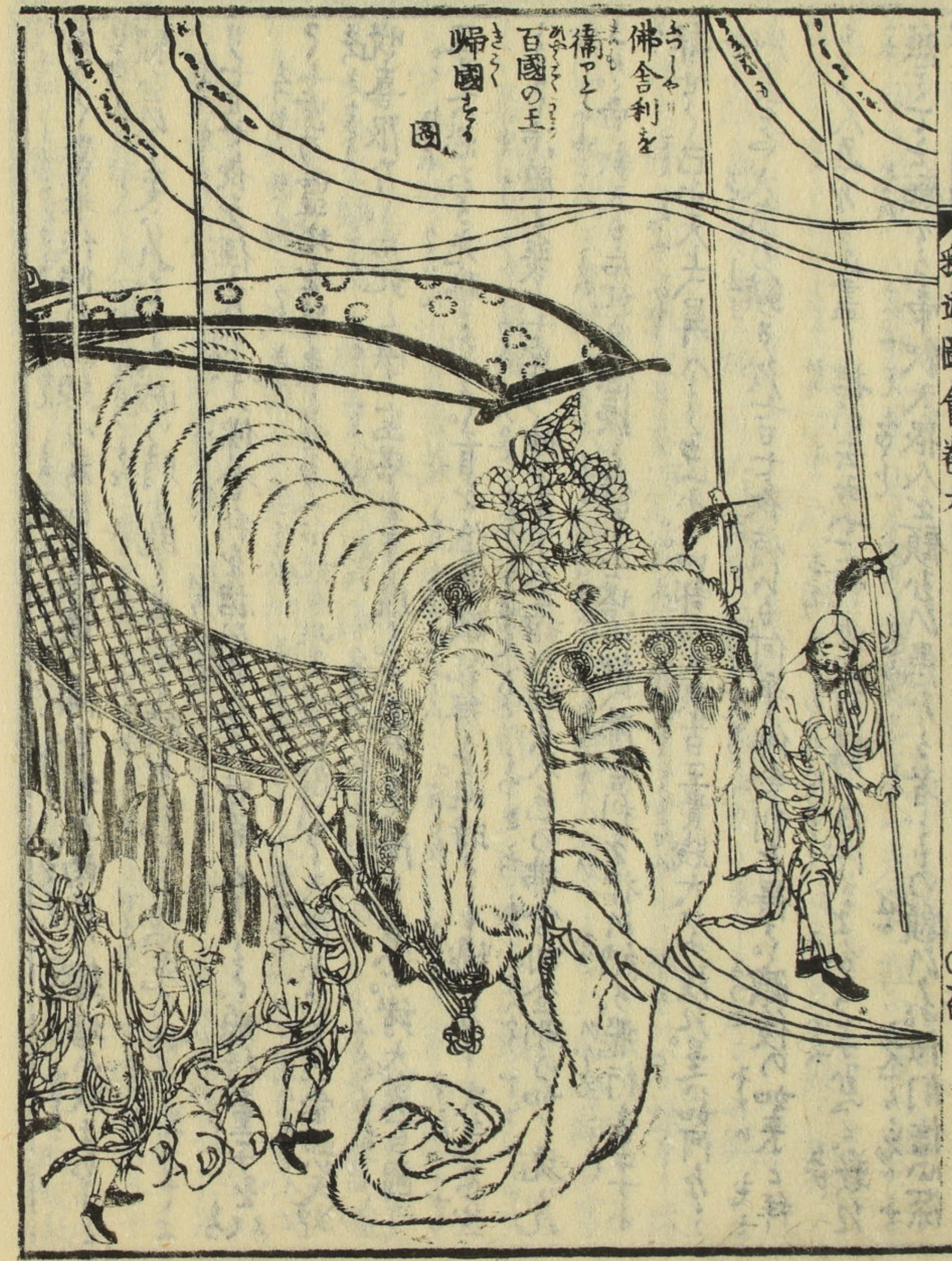
怨む。歎く。如來の別を惜む。小師兄。八。如來の臨終の時。未臨。遣。後。れ。徐。今。茲。來。り。刺。我。們。怨。歎。を。笑。ひ。お。六。不。審。の。御。更。り。と。怒。氣
を。合。言。向。を。迦葉。色。を。止。答。曰。更。も。愚。乃。向。更。も。我。三。度。々。夫。小。可。笑。更
と。嬉。れ。更。と。面。白。れ。更。と。三。つ。の。笑。み。更。有。を。以。て。阿。難。益。怒。曰。是。八。聞。更
小。可。笑。先。可。笑。更。と。何。可。笑。也。迦。葉。曰。和。僧。を。諸。羅。漢。如。來。小。隨
以。事。四。十。九。年。の。妙。統。を。聽。は。り。今。更。如。來。の。入。滅。を。看。す。其。妻。の。中。小。法。の
魂。を。失。ひ。愁。歎。ある。八。將。小。阿。羅。漢。の。位。を。放。す。俗。躰。凡。夫。小。異。なり。其。可。笑。き
小。笑。か。り。なり。二。小。素。我。師。釋。尊。八。生。乃。切。德。積。り。兜。率。天。小。生。乃。以。善
慧。善。善。薩。と。稱。し。なり。一切。諸。天。王。の。尊。信。尊。上。界。小。在。法。を。統。む。一。度
大。怨。願。を。發。し。以。下。界。の。一切。衆。生。無。量。の。罪。を。造。り。永。く。惡。趣。小。沈。淪。を。以
を。憐。み。お。れ。是。を。濟。度。せん。と。一。生。補。處。を。去。り。淨。飯。王。の。后。妃。摩。耶。夫。人。を
因。に。乃。結。縁。有。上。彼。夫。人。乃。命。數。盡。す。其。年。其。月。小。命。終。あり。を。知。覺

夢おたし其胎内小宿り。四月八日降誕あり。七日の後小夫人と夢にむり是素
 リ天敷す。如来降誕の故あらむとたたく如來胎中を借むる。遊天に
 をれ定命。然も成思昧肉眼の凡夫の如來の誕生也。小覺し。西す。小入
 齒牙さるる不足辟使なり。其もすれ。我佛如來御發願の如し下畏小出
 現す。廣大無辺の法を鏡を一切衆生を海度。再び寂光の都へ面らむ
 佛心満足。あつ。念思はは。嬉し。限り。笑ひ。三つ。如來
 本不生不滅の御身か。前乎。如く。普く。衆生を化益せん。汚穢不淨の
 人界小生を托し。今涅槃小す。緒行無常。是生滅法生滅々已寂滅為樂の機
 を示し。菩薩羅漢四部の大衆の佛法小心停。未だ不停。試の事
 面白く笑ひ。かり。迦葉が鉄石心未煉の怨敷小發狂。た。固り天魔
 破句小惑心さるる。猶も不審の。天小響。大音。年舌流水乃
 如く述々小を。阿難を首。萬億の大衆百國の王民間賢愚小。あつ。

感。実。如來。高弟。威後の如來と仰る。曰。世尊の金言宜かり。各
 各讚歎。時。迦葉阿難小對。曰。我緒羅漢。後れ。如來涅槃。相
 好を拜。我小金指を問。拜。望。阿難大。後。是
 小。御望。如來滅度を執。已。七日。往。今。法相。變り
 此義。思。止。固。辭。肯。不測。如來の金
 指。然。開。金色の御手を出。迦葉を招。大衆大。後。死。思
 や。如來。命。終。小。棺。小。収。大。を。更。勿。轉。身。小。冷。汗。を。流。慚。愧。後。悔。迦。葉。是。を。目。小。阿。難。を。其。時。佛。左
 乃。側。立。寄。如。來。の。法。相。を。拜。隨。喜。の。泪。小。法。衣。の。襟。を。沾。其。時。佛。左
 乃。御。手。小。法。衣。と。鉄。鉢。を。執。迦。葉。小。付。屬。右。の。御。手。小。袈。裟。と。卧。具。と
 把。阿。難。小。付。屬。小。兩。羅。漢。纏。是。を。頂。戴。者。多。金。指。亦。自。然。麻。を。削
 忽。ち。大。田。相。の。金。光。輝。た。出。繒。蓋。を。照。野。草。樹。木。盡。く。金。の。色。乃。緒



佛舍利を
 備へし
 百國の王
 歸國す
 國



く心不飯命して棺所を探らば佛舍利あり。妻猶無數あり。朕が今居るところ
 佛舍利ハ如来在世の昔より固く契約しあり。後佛出世の時節も南天の鐵塔
 小納むがれれば人回の手不採んと可なり。神を拂き尋天にひたり。諸人天
 帝乃銘命お伏し各心三密を初念し棺所を立より。これ實り天帝の勅命
 の如く佛舍利玲瓏しく猶數萬環有るを皆歡喜踊躍し大衆及び百國の王
 八大竜王の如く命を戴て本國を回り各宝塔を造り佛舍利を安置し生
 身の如来の如く偈仰し種々不供養しあり。就中夕陽山の妙惠比丘尼が
 乃入滅し御怒歎限り。阿難者者頼り佛舍利一環を得玉塔を造り是を
 納り阿難を請招て佛舍利供養乃為百日般若を勤し阿難者者其信心を
 感し如来智性摩河般若舍利經を授られん。妙惠比丘尼深く悦び朝夕不
 此經を讀誦し信心堅固不行い。二年を過し諸根を脱し終小
 大住生の素懐を遂げん。且亦如来御遺言の如く迦葉を鷄足山の室に入る

法成修し舍利弗可難富樓那羅睺羅六祇園精舍を作し阿難ハ初利天正寺小住
 同連八象頭山小入各如来の妙經を説く衆生を海度し。其余の阿羅漢も諸
 國の靈場小住し佛法弘通ある。諸彼八大龍王六佛舍利を得て歡喜限りなく
 是を我が五妻三熱の苦患を故にわく妙樂微妙の至密成道乃勸具功德乃如
 來なり。佛の龍宮城裡小水晶塔を建て佛舍利を毫朝暮圍繞奉拜し
 たり。されを釋尊乃功德八天上下界まで普く源遠く未だ血分り中華日域迄
 佛法傳り三室小飯依し如来の妙法を修し生老病死乃四大苦を脱し極樂界
 小住生する者世々億萬の數をを信じて尊び奉りしと云ふ

大味氣主蘇卷六

大和屋圭藏参考

弘化二年乙巳四月

京都堀川通二條下

越後屋治兵衛

江戸日本橋通二丁目

山城屋佐兵衛

大和心齋橋通博勞町角

河内屋茂兵衛

發兌書林

和漢
西洋

書籍賣捌處

大和心齋橋博勞町角

群玉堂河内屋

岡田茂兵衛

潤色書禮
多賢用